

2008 年度春合宿報告

担当：寺司（2年）

期間：2009年2月28日～3月2日

山城：大山

参加者：CL 圓井拓哉（3年）、SL 寺司周平（2年）、甲斐誠二（1年）、立川雄大（1年）
田中宏典（1年）、早川方樹（1年）

2009年3月1日（日）

8:14 大山寺（バス停） 8:35～9:40 元谷小屋

夜行バス、バスを乗り継ぎ大山の手前に降り立つ。当然の如く、雪に埋もれた駐車場。全ての準備をそこで済ませる。前日に西鉄天神 BC で荒木先輩から差し入れていただいた草スキー用のボード。さすがにザックには入らないため、ビニル紐で後ろにくくりつける。道の左右に立ち並ぶ宿の数々。しかしここにゴミ箱はない。しょうがなく、バスの中で食した飯のガラとペットボトルはポケットに。本日の天気、雪は降らないが曇り空。

大山寺から大山神社の道には“日本一長い石畳”の立板。雪に埋もれて見えやしない。大山神社の隣を通り、いよいよ大山登山のスタート。と、30分後元谷小屋到着。

小屋の周りは、雪が解けて地面が露出しているところもあるほど。斜面にて滑り台と雪洞堀体験。遊び感覚で掘り始めるも、すぐにその大変さを実感。無理な体勢で掘る窮屈さ。邪魔な木の根を、スコップで叩いて切らなければならない。汗まみれの立川。器用に掘り進む甲斐。完成までに3時間ほどを要したか。出来た雪洞は参加6名全員を収納してなおも余りあるほど。中は風が遮られていて、寒さを感じない。

今宵は雪洞で寝ようかという案があるも、希望者がいないため却下。陥没事故を防ぐため取り壊しにかなる。九州国際大学のパーティに出会い、スノーソーの威力を実感。次回は持ってこよう。途中、雪が降り始める。

テントを立て、外で鍋を作り、小屋の中で食し、早々と就寝。明日の山行に備える。

2009年3月2日（月）

元谷小屋 5:30～6:50 六合目避難小屋 7:05～8:20 弥山 8:40～10:20 元谷小屋 11:10～12:20
大山寺(バス停)

起床後すぐに朝食をとりテントを後にする。真っ暗闇と吹き付ける雪。昨日のうちに偵察をしていたためどこを歩けばいいのか把握してはいるものの、視界はほとんど閉ざされて足下のトレースをみでの歩きが続く。いくつかの防砂堤を越えた後、トレースは左の斜面へ。そこから先がほとんど埋もれてわからない。

リーダーとサブリーダーで分かれて尾根の上と沢とで道を探す。両方がほどなくして消えたトレースの続きを発見。待たせていた残りのメンバーを呼び寄せ、数分後、尾根の上で全員が合流。

そこからさらに登る。樹林帯ではあったものの風、雪が吹き付けて、雪山を登っているのだという気持ちになってくる。6合目避難小屋についた頃には、辺りは明るくなっていた。小屋は半分が埋まっていたが、中に入ることができた。小屋は7名全員が入ってやっとの大きさである。

休憩後、すぐに出発。出発直後、寺司のザックの後ろにつけておいた草スキーボードがすごい勢いで飛ばされた。樹木のあまりはえていない斜面を少し登ると立て看板が。道をそれていないことに安堵を覚える。そこからは弥山山頂の小屋まで木道がのびていた。小屋は2階建てで、20人以上は入れるスペースがある。小屋から頂上までは5分とかからない。本日の天気は始終、強い風と雪であった。

後は下山するだけ、みんなの足は軽い。テントサイトに戻ると九国大のパーティが弥山に登る用意をしていた。デポしていたテントを回収し、下山。途中通った大山神社は、前日と比べても明らかに20センチ以上雪が増えていた。

バス、電車を乗り継ぎ福岡に帰る。青春18切符の旅は、長かった。

反省

立川雄大

春というよりも山の季節はまだ冬といった感じでの春合宿でしたが、今回の大山の合宿で自分のなかで強く印象に残ったのは、一日目に創った雪洞でした。今回、合宿で大山にいた期間は二日と短いものですが、そのなかの一日目の雪洞はとても良い経験になりました。

自分はもともと研究発表で雪洞について調べてはいたのですが実際にやってみると思ったより難しく、何処に造ったらいいのかもなんとなくでしか分からず雪をかき出すのにも雪が重く苦勞しました。しかし、合宿のメンバーと一緒にやると、最初難しいといった思いもだんだんなくなり、楽しみながら大きく立派なものができ、三時間ぐらいかかりましたけどやってみてとても良かったと思いました。

それから二日目に大山登ったんですが天気の具合が悪く景色があんまり見れなかったのは残念でした。

春合宿のテーマは大山に登ることで、雪洞はサブテーマ的なものだったんですけど、たまにはサブの方が楽しくてもいいかなと思いました。

早川方樹

今回の合宿は夜行バスを1泊と考えると、僕にとっては2泊の合宿となり、この1年で最

長の合宿である。雪山合宿に反対している両親は、雪山で1泊だけということで行かしてくれた。この合宿は体力的にも日程的にも余裕があり物足りなさを僕以外の部員は感じたと思う。しかし、僕にとってはとてつもなく意義のある合宿となった。あんなに雪を見たことも、雪洞を作ったことも、雪を痛いと感じたことも、眼鏡が凍って前が見えなくなったことも経験したことがなかった僕にとって、雪山で経験する全てのことが新鮮だった。とくに、“雪山に登る”という経験をしたことが何より大きい。2009年3月2日は僕の人生の最も大切な日々の中の1日となった。

最後に今回の合宿で、装備を貸して下さった方々、本当にありがとうございました。□

田中宏典

山に入りて暫し歩けば元谷小屋に着けり。雪積もること八ヶ岳を凌ぐほどなり。荷も置ぬほどに雪を掻きて雪洞を掘り出せり。雪古ければいと固けれど、立川右大臣、圓井太政大臣より雪洞掘りが指揮を承りて、甲斐内大臣、冬が山に入る事初めてなる早川内大臣が勤行も在りて、いとなのめならぬ雪洞掘れり。我、雪洞が内において立川右大臣、甲斐内大臣が掘り出せり雪を外に掻き出す事に徹し、明るる日我が腕曲がらざるほどに痛みけり。未だ嘗て雪をかほどまでに重く感ずることなし。立川右大臣、雪洞にて夜を明かすと目論めど、叶はずして、右大臣雪洞が上に乗りけるほどに崩れ、いと悲しめり。またそり滑りし、右大臣が滑りしほどに我美出尾にその姿治めけり。また寺司左大臣が提言にて小屋にも展都にも入らずして寄せ鍋作りけれど、失策にてあまりに寒ければ諦めて小屋に入りて食ひけり。明るる日弥山に登りけり。風いと強けれど八ヶ岳に如かず、道も狭からざれば歩きやすし。然し向かひ風強く雪もちらつきければ、顔に当たりて痛く、豪燥なれば進むこと能はざりけり。故に八ヶ岳が山行と比ぶれば、此れいと易しと雖も楽ならずして、下りるほどに我が足が関節泣き出しけり。山を下り、米子より福岡へと帰るに、青春18切符による各駅停車にて、その道行き10時間にも及びけり。我夜行場巢にて悠々帰ること望めど、数多賃金安ければ汽車にて帰りければ、叶はずして我もさすること斯くの如し。疲ること山行を凌ぐほどなれば、我思はずして此の汽車が旅に如くもの今合宿にあらず。

甲斐誠二

前回の雪山登山では反省すべき点が多くあり、今回はそれを生かすとてもよい機会であったと思う。さらに、今回は雪洞作りや吹雪の中の登山といった、前回にない一面を味わうことができ、期間は短かったものの充実した登山であった。

初日の雪洞作りではかなり時間がかかってしまって、効率をよくする必要があることを実感させられた。いざ雪洞の中に入ってみると寒くなく、快適なことに驚いた。また、ものすごく頑丈で壊すのにも一苦労だった。

弥山のアタックのときは三時間弱で登ることができたけど、風ががつよくて視界がさえ

ぎられるし、吹き飛ばされそうになるしで大変だった。しかし、八ヶ岳で体験したことを生かし快適に登山を楽しむことができた。

今回の大山登山は行程に余裕もあったので雪山という環境を存分に楽しむことができ、非常に楽しく登山できた。